

リモートI/O変換器 <b>R3</b> シリーズ		
<b>取扱説明書</b>	CC-Link IE Field ネットワーク用	形式
	<b>通信カード</b>	<b>R3-NCIE1</b>

## ご使用いただく前に

このたびは、エム・システム技研の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

### ■梱包内容を確認して下さい

・通信カード .....1台

### ■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

### ■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

## ご注意事項

### ●EU 指令適合品としてご使用の場合

- ・本器は盤内蔵形として定義されるため、必ず導電性の制御盤内に設置して下さい。
- ・お客様の装置に実際に組込んだ際に、規格を満足させるために必要な対策は、ご使用になる制御盤の構成、接続される他の機器との関係、配線等により変化することがあります。従って、お客様にて装置全体でCEマーキングへの適合を確認していただく必要があります。

### ●ホットスワップについて

- ・本器は通電状態での交換が可能です。ただし、システムに影響を及ぼす可能性があるため、必ず上位機器とは通信していない状態で交換して下さい。複数のカードを同時に交換することは大きな電源変動を起こす可能性があります。交換は1台ずつ行って下さい。

### ●取扱いについて

- ・本器のスイッチ類は、通電時に操作しないで下さい。スイッチによる設定変更は、電源が遮断された状態で行って下さい。

### ●設置について

- ・屋内でご使用下さい。
- ・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
- ・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
- ・周囲温度が -10 ~ +55℃を超えるような場所、周囲湿度が 30 ~ 90 % RH を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

### ●配線について

- ・配線は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
- ・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。
- ・危険防止のため、必ず端子カバーを取付けて下さい。

## 取付方法

ベース（形式：R3-BS）、アドレス可変形ベース（形式：R3-BSW）をお使い下さい。ただし、通信カード（形式：R3-NCIE1）をベースに取付ける前に、下記の項目を行って下さい。

### ■伝送データの割付（スロット割付）

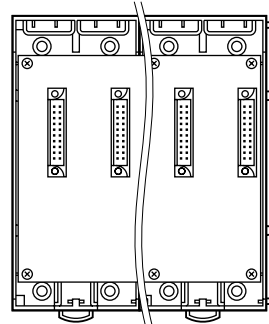
側面のスロット割付設定用ディップスイッチ（SW1、SW2）にて、スロットごとに入出力カードのデータエリア（データ数）を設定します。これにより、伝送データが割付けられます。

### ■局番ほか各種設定

必ずカードを取付ける前に、「各部の名称」の項を参照して下さい。

### ■ベースへの取付

I/O1/O2... I/On

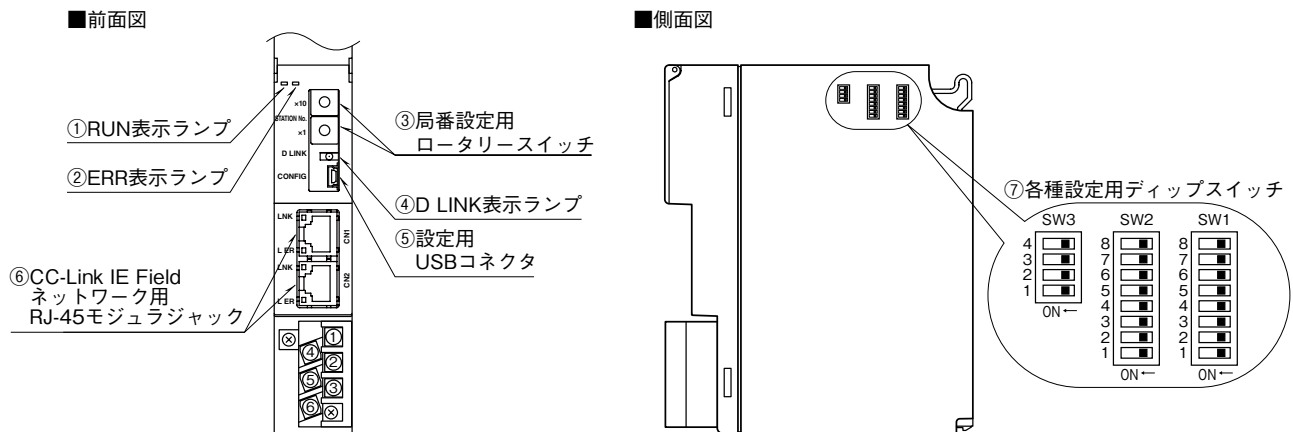


R3-BS 使用時は、入出力カードは、I/O1から順に実装して下さい（通信カードに対し、I/O1から割付けられます）。

通信カード、電源カードは、全てのスロットに実装可能ですが、基本的には入出力カードの右側、またはベースの右側の実装して下さい。

R3-BSW には、ロータリスイッチによりスロット番号が任意に設定することができます。これにより、実装するスロットを自由に変更することができます。

## 各部の名称



### ■状態表示ランプ

項目	ランプ名	表示色	内容	状態	意味
状態表示	RUN	緑色	動作状態	点灯	正常動作中
				消灯	機器エラー発生中
	D LINK	緑色	データリンク伝送状態	点灯	データリンク中(サイクリック伝送中)
				点滅	データリンク中(サイクリック伝送停止中)*1
	ERR	赤色	エラー状態	点灯	重度エラー発生中*2
				点滅	軽度エラー発生中*3
CN1	LINK	緑色	CN1 リンク状態	点灯	リンクアップ中
				消灯	リンクダウン中
	L ER	赤色	CN1 受信データ	点灯	受信データ異常、ループバック実施中
				消灯	受信データ正常、ループバック未実施
CN2	LINK	緑色	CN2 リンク状態	点灯	リンクアップ中
				消灯	リンクダウン中
	L ER	赤色	CN2 受信データ	点灯	受信データ異常、ループバック実施中
				消灯	受信データ正常、ループバック未実施

\*1、予約局に設定中、リンク停止中など。

\*2、上位通信異常、内部バス通信異常など。

\*3、不揮発性メモリ異常、電源起動後に局番設定用ロータリースイッチが変更された。

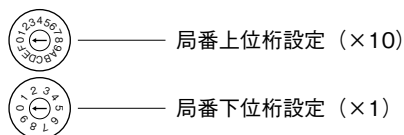
### ■局番設定用ロータリースイッチ

局番の上位桁を上側のロータリースイッチで、下位桁を下側のロータリースイッチで設定します。

(設定可能範囲：1～120)

実際のご使用にあたって設定可能な局番は、マスタユニットの取扱説明書にてご確認ください。

(工場出荷時設定：01H)



### \*局番設定例

局番上位桁設定のロータリースイッチにおいて、A：10、  
B：11、C：12を表します。例えば局番115に設定したい  
場合は、局番上位設定：B、局番下位桁設定：5に合わせます。  
D、E、Fは未使用ですので設定しないで下さい。

## ■ディップスイッチの設定

(\*) は工場出荷時の設定

### ●スロット割付の設定 (SW1、2)

R3シリーズの入出力カードには、入出力点数により、占有エリア（データ量）の異なる4種のタイプがあります。このため、各スロットにどのタイプの入出力カードを実装するかをSW1およびSW2にて設定します。

SW1およびSW2により、スロット1からスロット8を任意に設定することができます。スロット9以降はスロット8と同じタイプのカードとなります（各スロットの設定は、2ビットにて設定します）。

各入出力カードの占有エリアについては、シリーズ仕様書を参照して下さい。

SW		占有エリア(データ数)
SW1-1	SW1-2	スロット1
SW1-3	SW1-4	スロット2
SW1-5	SW1-6	スロット3
SW1-7	SW1-8	スロット4
SW2-1	SW2-2	スロット5
SW2-3	SW2-4	スロット6
SW2-5	SW2-6	スロット7
SW2-7	SW2-8	スロット8
OFF	OFF	1
ON	OFF	4
OFF	ON	8
ON	ON	16

### ●機能設定 (SW3)

通信カードの機能を設定します。

#### ・メイン/サブ切替設定 (SW3-1)

R3シリーズでは、通信カードを2枚まで実装でき、通信の2重化が可能です。2枚実装する場合には、必ず一方を“OFF：メイン”に、他方を“ON：サブ”に設定しなければなりません。また、1枚のみの実装の場合は“OFF：メイン”に設定しなければなりません。

SW	メイン/サブ切替	
	メイン	サブ
SW3-1	OFF(*)	ON

#### ・入力データ設定 (SW3-2)

入力カードに異常が発生し、通信カードとの通信ができない場合に入力値を設定します。“OFF”の場合は最終値で保持し、入力カードとの通信ができるまで更新されません。“ON”の場合は、入力カードとの通信が連続して異常（不可）の場合、入力値を“0”にします。

SW	入力データ	
	ホールド	“0”セット
SW3-2	OFF(*)	ON

注) SW3-3、4は未使用のため、必ず“OFF”にして下さい。

## コンフィギュレータソフトウェア設定

コンフィギュレータソフトウェアを用いることにより、以下の設定が可能です。

コンフィギュレータソフトウェア（形式：R3CON）の使用方法については、R3CONの取扱説明書をご覧ください。

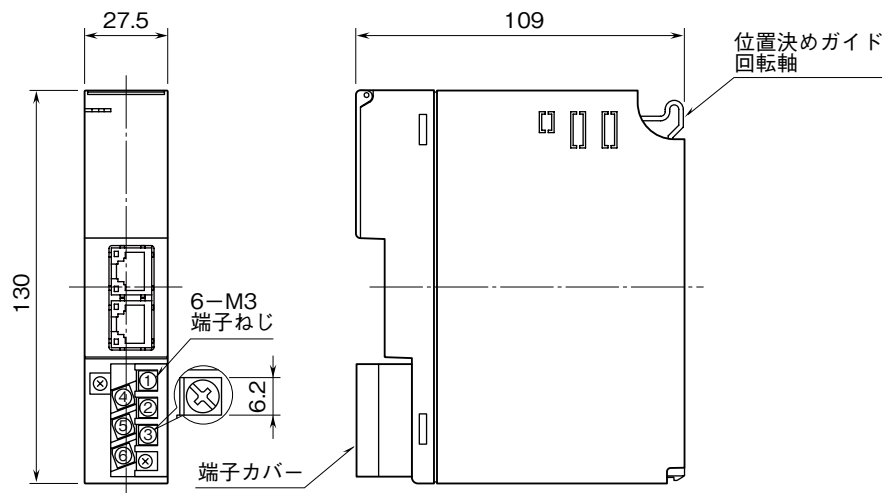
### ■CC-Link IE 設定

項目	設定範囲	初期値
NetWork No. (CC-Link フィールドネットワーク番号)	1~239	1
Main/Sub switching delay time (0 - 5000 msec) (マスタ⇔待機マスタ間の切替え遅延時間)	0~5000 (単位ミリ秒)	0

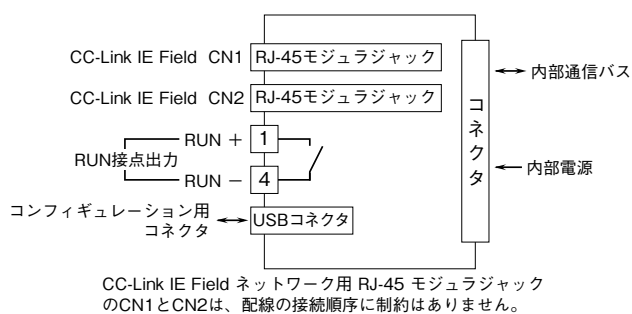
## 接 続

各端子の接続は端子接続図を参考にして行って下さい。

### 外形寸法図 (単位：mm)



### 端子接続図



## 配 線

### ■M3 ねじ端子 (RUN 接点出力)

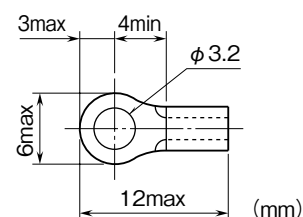
締付トルク: 0.5 N·m

### ■圧着端子

圧着端子は、下図の寸法範囲のものを使用して下さい。また、Y形端子を使用される場合も適用寸法は下図に準じます。

推奨圧着端子: R 1.25-3 (日本圧着端子製造、ニチフ)  
(スリーブ付圧着端子は使用不可)

適用電線: 0.75 ~ 1.25 mm<sup>2</sup>



## 伝送データ

本器側面のディップスイッチにより、各入出力カードの伝送データ数（占有エリア）を設定することができます。スロット 1 から順に設定された占有エリアが割付けられます。1 ノード当りの最大伝送データ数は 64 ですので、構成する入出力カードの伝送データ数の合計は 64 以下になるようにしてください。

局タイプ：リモートデバイス局

リンクデバイス：RX / RY 128 点、RWw / RWr 64 点

例えば、以下のような構成の場合、入出力データは下図のように割り付けられます。

ベース	スロット番号	形式	伝送データ数
R3-BS10	1	R3-DA16A	1
	2	R3-DC16A	1
	3	R3-SV4	4
	4	R3-YV4	4
	5	R3-RS8	8
	6	R3-YV8	8
	7	R3-PA16	16
	8	R3-PC16A	16
	9	R3-NCIE1	—
	10	R3-PS1	—

# R3-NCIE1

## ■入力データ

本器からマスタ機器に送信するデータを示します。

RWr n	0	15
		R3-BS10
		スロット 1 R3-DA16A Di16点
		スロット 2 R3-DC16A Do16点
+2		スロット 3 R3-SV4 CH1
		CH2
+4		CH3
		CH4
+6		スロット 4 R3-YV4 CH1
		CH2
+8		CH3
		CH4
+10		スロット 5 R3-RS8 CH1
		CH2
+12		CH3
		CH4
+14		CH5
		CH6
+16		CH7
		CH8
+18		スロット 6 R3-YV8 CH1
		CH2
+20		CH3
		CH4
+22		CH5
		CH6
+24		CH7
		CH8
+26		スロット 7 R3-PA16 CH1
		CH2
+28		CH3
		CH4
+30		CH5
		CH6
+32		CH7
		CH8
+34		CH9
		CH10
+36		CH11
		CH12
+38		CH13
		CH14
+40		CH15
		CH16
+42		スロット 8 R3-PC16A CH1
		CH2
+44		CH3
		CH4
+46		CH5
		CH6
+48		CH7
		CH8
+50		CH9
		CH10
+52		CH11
		CH12
+54		CH13
		CH14
+56		CH15
		CH16

## ■出力データ

マスタ機器から本器が受信するデータを示します。

RWw n	0	15
		R3-BS10
		スロット 1 R3-DA16A Di16点
		スロット 2 R3-DC16A Do16点
+2		スロット 3 R3-SV4 CH1
		CH2
+4		CH3
		CH4
+6		スロット 4 R3-YV4 CH1
		CH2
+8		CH3
		CH4
+10		スロット 5 R3-RS8 CH1
		CH2
+12		CH3
		CH4
+14		CH5
		CH6
+16		CH7
		CH8
+18		スロット 6 R3-YV8 CH1
		CH2
+20		CH3
		CH4
+22		CH5
		CH6
+24		CH7
		CH8
+26		スロット 7 R3-PA16 CH1
		CH2
+28		CH3
		CH4
+30		CH5
		CH6
+32		CH7
		CH8
+34		CH9
		CH10
+36		CH11
		CH12
+38		CH13
		CH14
+40		CH15
		CH16
+42		スロット 8 R3-PC16A CH1
		CH2
+44		CH3
		CH4
+46		CH5
		CH6
+48		CH7
		CH8
+50		CH9
		CH10
+52		CH11
		CH12
+54		CH13
		CH14
+56		CH15
		CH16

## ■リモート入力

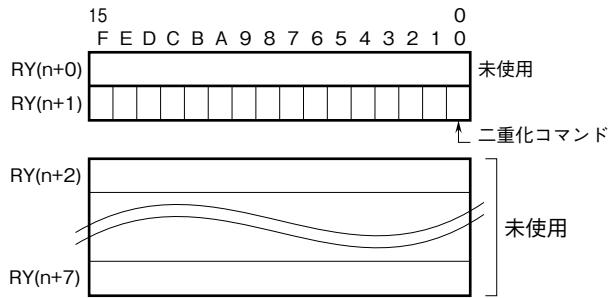


- ① RX (n + 0) B は Ready 信号とし、本器が正常状態で “1” となります。
- ② 二重化コマンドリードバック (付加コード： / W 三菱製 PLC の 2 重化システム対応品のみ有効)  
RY (n + 1) 0 に書き込まれたビットが RX (n + 1) 0 にリードバックします。
- ③ カード情報  
RX (n + 2) 0 ~ RX (n + 2) F に R3 シリーズの各カードの実装 (有無) 状態を示します。  
カードが実装されている場合、対応するビットが “1”、未実装の場合、“0” となります。
- ④ 異常情報  
RX (n + 3) 0 ~ RX (n + 3) F に、R3 シリーズの各カードの異常を示します。  
下記の状態が発生した場合、対応するビットが “1” となります。
- ・ R3—TS □、R3—RS □、R3—US4 (熱電対、測温抵抗体入力時) の入力値がバーンアウト
  - ・ R3—DA16A の入力電源が異常、または未接続
  - ・ R3—YS □ の出力電流が異常 (負荷未接続など)
  - ・ R3—PC16A の外部供給電源が異常、または未接続
- ⑤ データ異常情報  
RX (n + 4) 0 ~ RX (n + 4) F に、R3 シリーズの各カードのデータ異常を示します。  
下記の状態が発生した場合、対応するビットが “1” となります。
- ・ 入力値が -15 % 以下または 115 % 以上の場合。
  - ・ R3—US4 (電圧入力時) の入力値が -10 % 以下または 110 % 以上の場合。

RX (n + 2) 0、RX (n + 3) 0、RX (n + 4) 0	スロット 1
RX (n + 2) 1、RX (n + 3) 1、RX (n + 4) 1	スロット 2
RX (n + 2) 2、RX (n + 3) 2、RX (n + 4) 2	スロット 3
⋮	⋮
RX (n + 2) F、RX (n + 3) F、RX (n + 4) F	スロット 16

上記以外の RX リンクデバイスは未使用です。

## ■リモート出力（付加コード：／W 三菱製 PLC の 2 重化システム対応品のみ有効）



### ●二重化コマンド

RY (n + 1) のビット 0 をマスタ局／待機マスタ局情報ビットとして使用します。

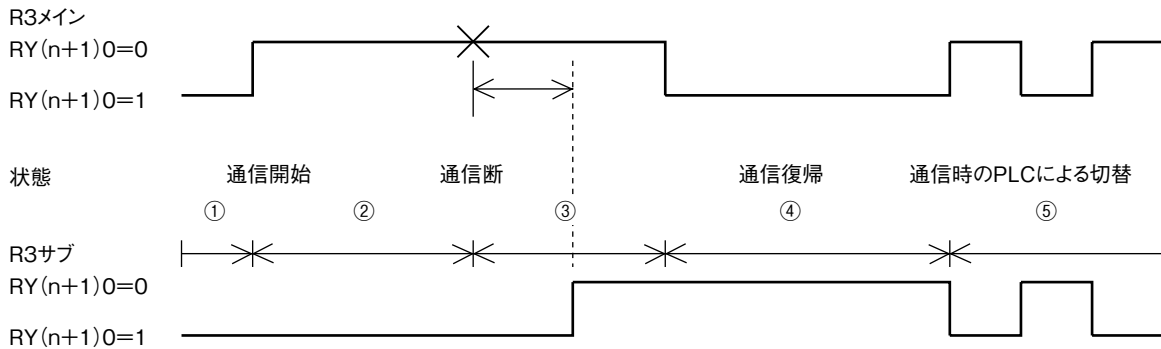
PLC のマスタ局から待機マスタ局への切替／待機マスタ局からマスタ局への切替の際に、このビットを PLC 側で設定して下さい。このビットにより R3 の出力カードの出力（スレーブ局）は次のように切替わります（R3 の入力カードは常時メイン、サブの双方向にデータを伝送しているため、切替わりはありません）。

RY (n + 1) 0 = 0 : PLC マスタ局

RY (n + 1) 0 = 1 : PLC 待機マスタ局

R3 メイン (RY (n + 1) 0)	R3 サブ (RY (n + 1) 0)	状 態
0	0	メインカードから出力
0	1	メインカードから出力
1	0	サブカードから出力
1	1	出力保持または出力 OFF (出力カードの出力保持設定による)

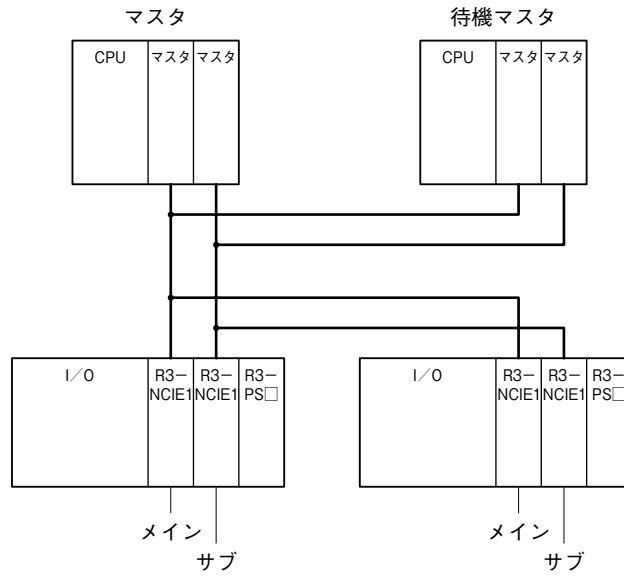
### ●動 作



- ① 未通信時、二重化コマンドビットは不定のため、R3 メイン、R3 サブ共に待機マスタ局として動作します。  
出力カードの状態は出力保持設定に従って、出力保持または出力 OFF となります。  
電源投入直後の未通信時は、接点出力カードは全チャンネル OFF、アナログ出力カードは -15 % を出力します。
- ② PLC のマスタ局と R3 メイン、待機マスタ局と R3 サブが通信します。
- ③ R3 メインの断線検知後、タイマ設定時間内は出力を保持します（タイマは R3CON にて設定可能です）。  
タイムアウト後、出力は R3 メインから R3 サブに切替わります。R3 サブの出力は、出力が切替わる前に必ず設定して下さい。  
切替わり後、R3 メインはマスタ局が待機マスタ局として動作します。
- ④ R3 メインの通信復帰後、RY (n + 1) 0 = 1 の場合、R3 の出力は切替わりません。  
RY (n + 1) 0 = 0 となった場合に出力が R3 サブから R3 メインに切替わります。  
PLC の制御がマスタ局から待機マスタ局に切替わった場合は必ず RY (n + 1) 0 = 1 を設定して下さい。
- ⑤ R3 メイン、R3 サブの両方が通信状態の場合、PLC で RY (n + 1) 0 の値を切替えると、待ち時間なく切替わります。  
出力が切替わる前に、必ず出力を設定して下さい。

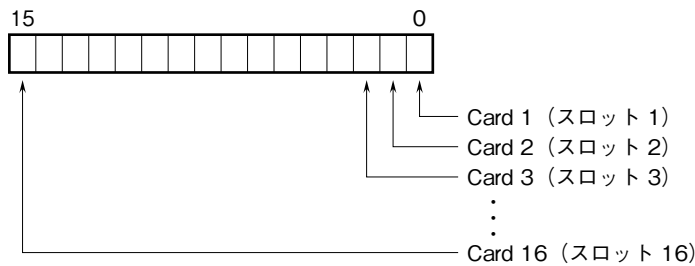


●システム構成例



上記以外のRYリンクデバイスは未使用です。

## カード情報、異常情報、データ異常情報



各スロットの入出力カードの有無および異常を示します。

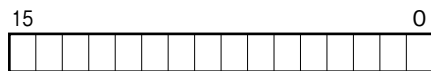
## 入出力データ

以下に代表的な入出力カードのデータ配置を示します。  
 入出力カードの詳細なデータ割付は、それぞれの取扱説明書を参照して下さい。

■入力カードとの通信異常時の動作

入力カードに異常が発生し、通信ができない場合には最終値を保持し、入力カードとの通信ができるまで更新されません。

■アナログデータ (16ビットデータ長、形式: R3-SV4、YV4、DS4、YS4、US4 など)



16ビットのバイナリデータ

基本的に、各カードで設定されている入出力レンジの0～100%を0～10000のバイナリ(2進数)で示します。

-15～0%の負の値は2の補数で示します。

R3-US4の場合は、-10～0%の負の値を2の補数で示します。

## ■アナログデータ（16ビットデータ長、形式：R3-RS4、TS4、US4 など）



### 16ビットのバイナリデータ

基本的に、温度単位が摂氏（℃）の場合には10倍した整数部を示します。例えば、25.5℃の場合は“255”がデータとなります。また、温度単位が華氏（°F）の場合には整数部がそのままデータとなります。例えば、135.4°Fの場合は“135”がデータとなります。

負の値は2の補数で示します。

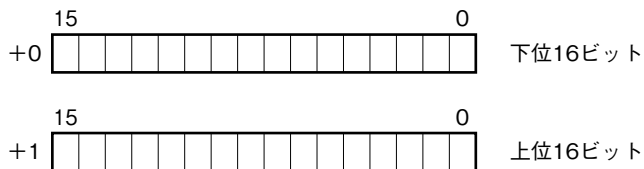
## ■アナログデータ（16ビットデータ長、形式：R3-CT4A、CT4B など）



### 16ビットのバイナリデータ

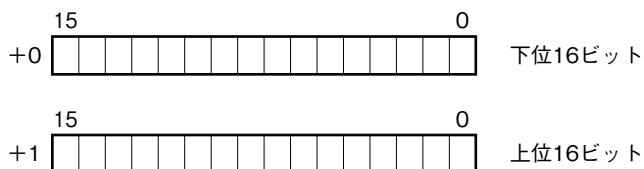
実量値（A）を100倍した整数（CLSE-R5は実量値（A）を1000倍した整数）を示します。

## ■アナログデータ（32ビットデータ長、形式：R3-PA2、PA4A、WT1、WT4 など）



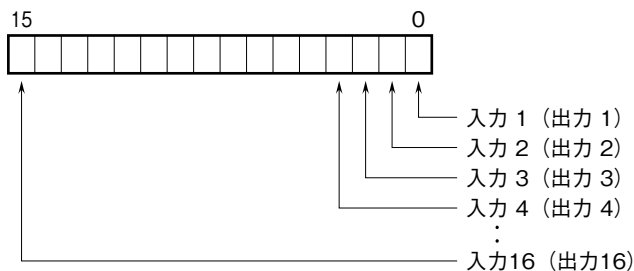
積算値、位置変換データは、32ビット長のバイナリデータです。  
低アドレスから順に下位16ビット、上位16ビットが配置されます。

## ■アナログデータ（32ビットデータ長、形式：R3-BA32A、BC32A など）



BCDコードデータは、32ビット長のバイナリデータです。  
低アドレスから順に下位16ビット、上位16ビットが配置されます。

## ■16点用接点データ（形式：R3-DA16、DC16 など）



0 : OFF

1 : ON

## 設定手順 (GX Works2)

### ■概要

ここでは、三菱電機製エンジニアリングソフトウェア GX Works2 (以下 GX Works2) の使用を前提に、本器の設定を説明します。

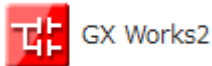
### ■プロフィールを登録する

本器は、CC-Link ファミリーシステムプロフィール (CSP+) をサポートしています。

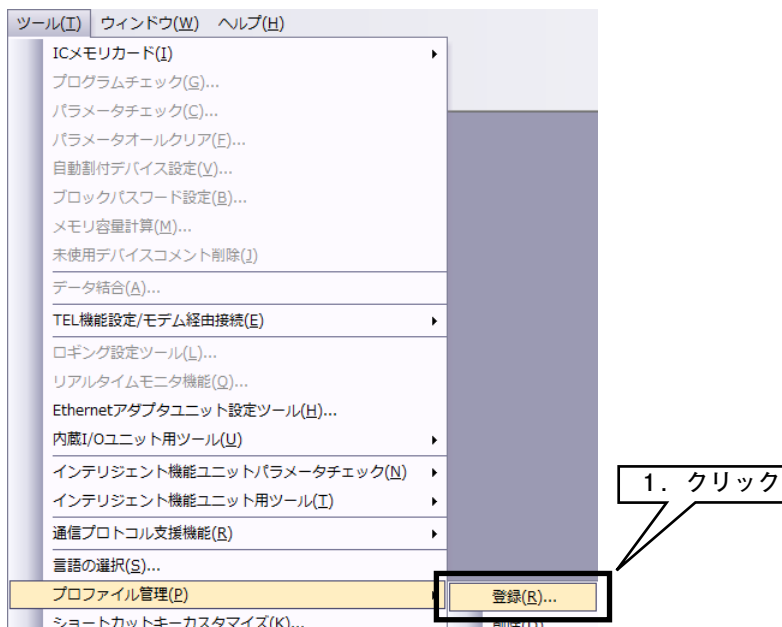
CSP+ は CC-Link 協会ホームページ [www.cc-link.org](http://www.cc-link.org) からダウンロードしてご利用いただけます。

\*CSP+ の登録は必須ではありません。登録しない場合は本項を飛ばして、「■システムを構成する」からはじめて下さい。

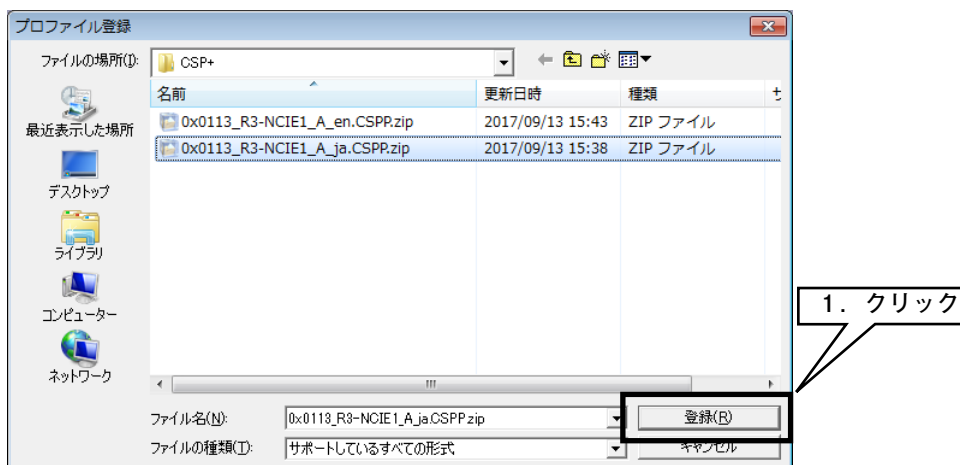
① GX Works2 を起動します。



②メニューの [ツール] → [プロフィール管理] → [登録] ボタンをクリックします。

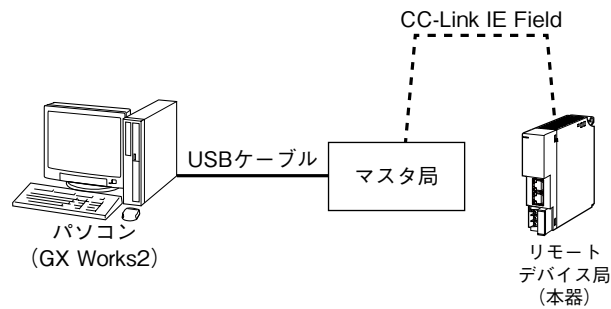


③ダウンロードした CSP+ ファイルを選択し [登録] ボタンをクリックすると、登録が完了します。



## ■システムを構築する

下図の構成でライン接続する場合を例に説明します。

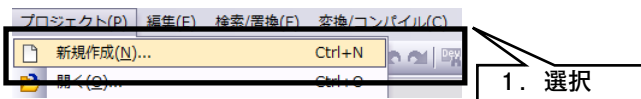


- ① マスタ局、リモートデバイス局（本器）を Ethernet ケーブルで接続します。CC-Link IE Field ネットワーク用 RJ-45 モジュラージャックの CN1 と CN2 は、配線の接続順序に制約はありません。配線時、各機器の電源は OFF にして下さい。
- ② 配線がすべて完了した後、各機器の電源を ON にして下さい。

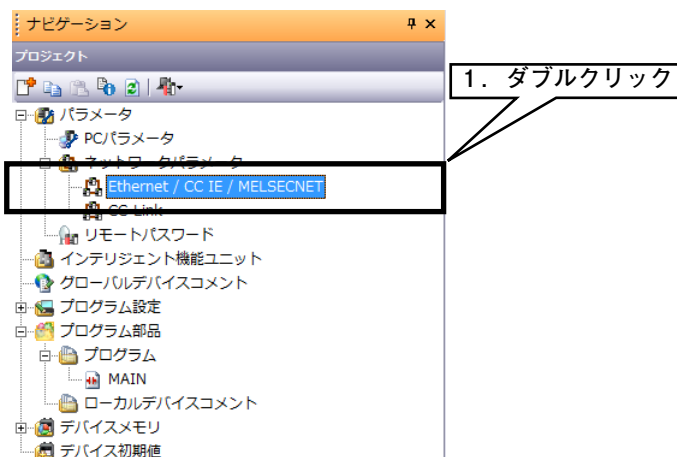
## ■プロジェクトを作成する

パソコンとマスタ局を接続し、あらかじめパソコンにインストールされた GX Works2 でマスタ局のプロジェクトを作成します。

- ① GX Works2 を起動します。
- ② メニューの [プロジェクト] → [新規作成] を選択し、プロジェクトを新規作成します。

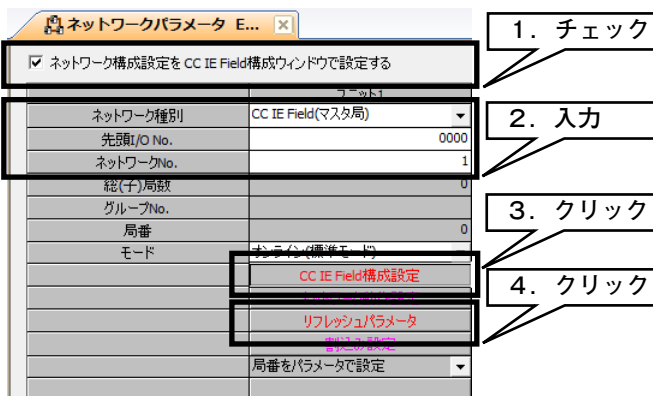


- ③ プロジェクトのツリーから [パラメータ] → [ネットワークパラメータ] → [Ethernet / CC IE / MELSECNET] を選択し、ダブルクリックにて、[ネットワークパラメータ Ethernet / CC IE / MELSECNET 枚数設定] 画面を開きます。



④ [ネットワーク構成設定を CC IE Field 構成ウィンドウで設定する] にチェックを入れ、下表の通りに設定して下さい。

設定項目	内容
ネットワーク種別	CC IE Field (マスタ局)
先頭 I/O No.	0000
ネットワーク No.	1

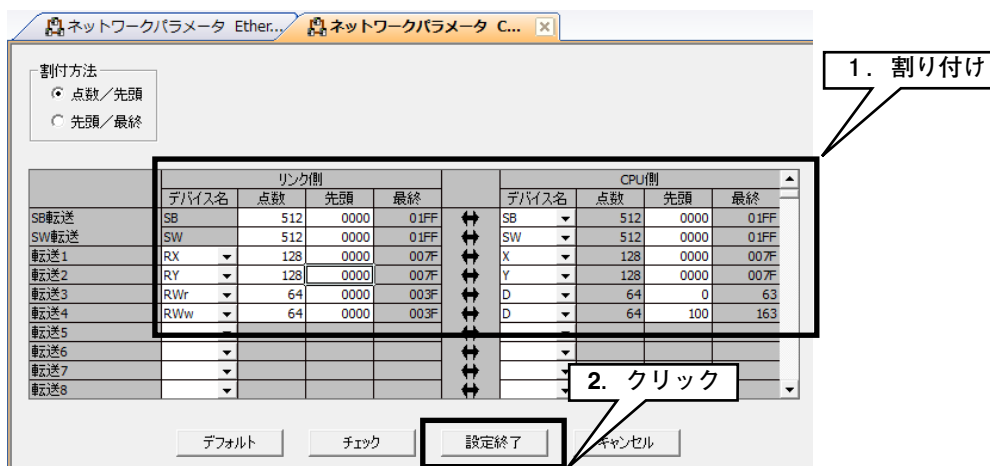


⑤ [CC IE Field 構成設定] をクリックし、[構成設定] 画面を表示させます。各構成ウィンドウのユニット一覧から、実際のシステム構成通りに機器を選択し、機器構成図にドラック&ドロップします。局番、RX / RY 設定 (128 点)、RWw / RWr 設定 (64 点) を入力し、メニューの [設定を反映して閉じる] をクリックします。

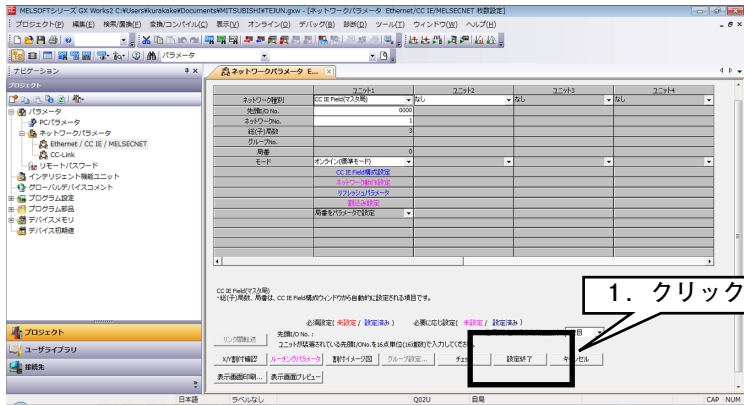


\* 本器の CSP+ を登録していない場合、[汎用 CC IE Field ユニット] を選択して下さい。

⑥ [リフレッシュパラメータ] をクリックし、[リフレッシュパラメータ設定] 画面を表示させます。リンクデバイス RX / RY / RWr / RWw を CPU ユニットに割り付け、[設定終了] ボタンをクリックして閉じます。



⑦ [ネットワークパラメータ Ethernet / CC IE / MELSECNET 枚数設定] 画面の [設定終了] ボタンをクリックして閉じます。

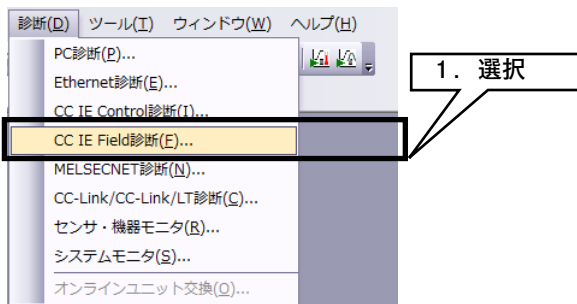


⑧ 必要に応じてプログラムを作成した後、パラメータとプログラムを CPU ユニットに書き込んで下さい。

## ■ ネットワークを診断する

GX Works2 の CC-Link IE Field ネットワーク診断で、ネットワーク全体の状態が一目で確認できます。異常箇所、異常原因、イベント履歴の確認、他局の状態のモニタなどが行えます。

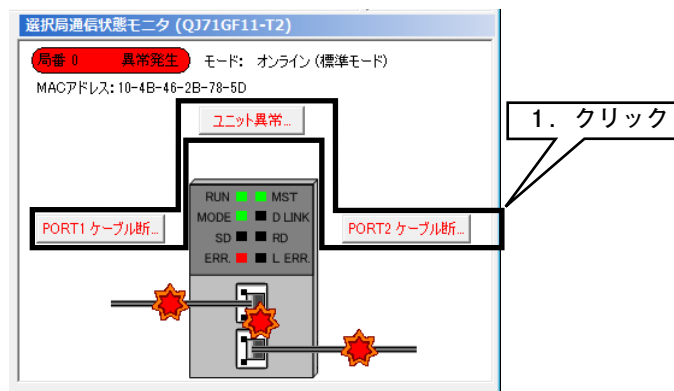
① メニューの [診断] → [CC IE Field 診断] を選択し、[CC IE Field 診断] 画面を表示します。



② 診断する局をクリックすると、[選択局通信状態モニタ] に局の状態が表示されます。



③異常がある場合は [ユニット異常] などのボタンが表示されますので、それをクリックして表示内容に従ってトラブルシューティングして下さい。



## 設定手順 (GX Works3)

### ■概要

ここでは、三菱電機製エンジニアリングソフトウェア GX Works3 (以下 GX Works3) の使用を前提に、本器の設定を説明します。

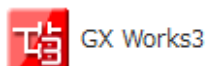
### ■プロフィールを登録する

本器は、CC-Link ファミリーシステムプロフィール (CSP+) をサポートしています。

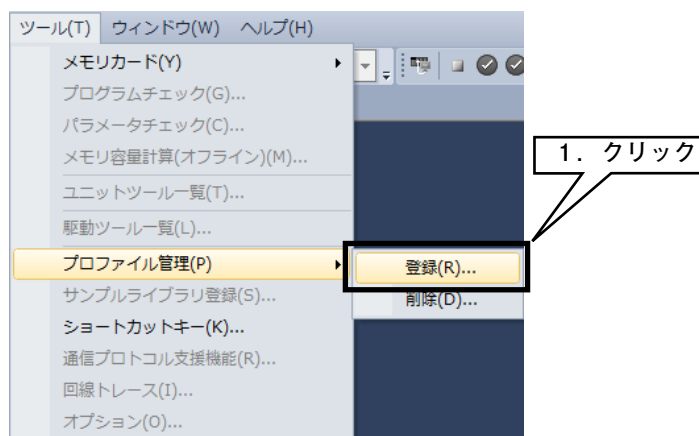
CSP+ は CC-Link 協会ホームページ [www.cc-link.org](http://www.cc-link.org) からダウンロードしてご利用いただけます。

\*CSP+ の登録は必須ではありません。登録しない場合は本項を飛ばして、「■システムを構成する」からはじめて下さい。

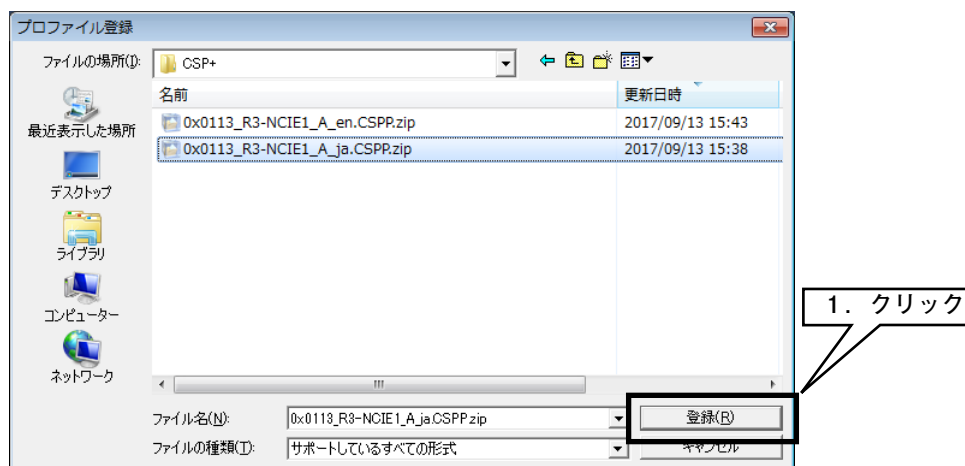
① GX Works3 を起動します。



②メニューの [ツール] → [プロフィール管理] → [登録] ボタンをクリックします。



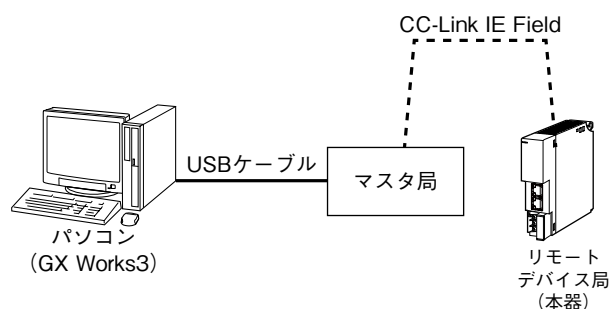
③ダウンロードした CSP+ ファイルを選択し [登録] ボタンをクリックすると、登録が完了します。





## ■システムを構築する

下図の構成でライン接続する場合を例に説明します。



① マスタ局、リモートデバイス局（本器）を Ethernet ケーブルで接続します。CC-Link IE Field ネットワーク用 RJ-45 モジュラージャックの CN1 と CN2 は、配線の接続順序に制約はありません。配線時、各機器の電源は OFF にして下さい。

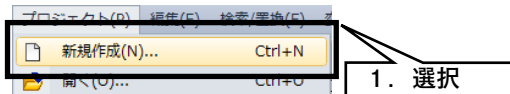
② 配線がすべて完了した後、各機器の電源を ON にして下さい。

## ■プロジェクトを作成する

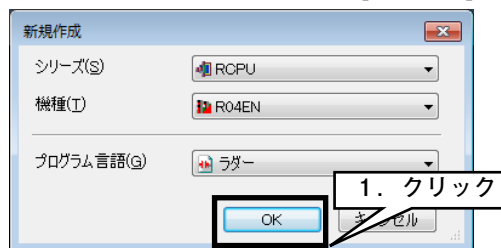
パソコンとマスタ局を接続し、あらかじめパソコンにインストールされた GX Works3 でマスタ局のプロジェクトを作成します。

① GX Works3 を起動します。

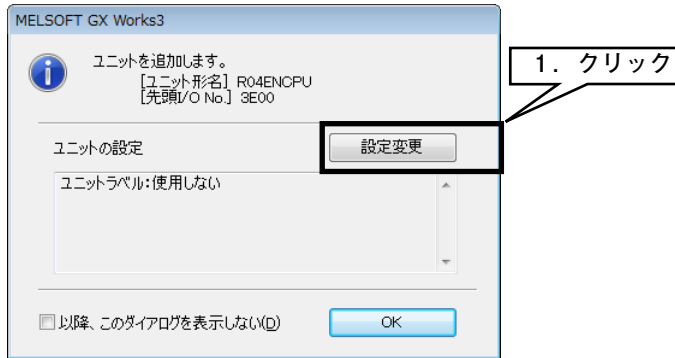
② メニューの [プロジェクト] → [新規作成] を選択し、プロジェクトを新規作成します。



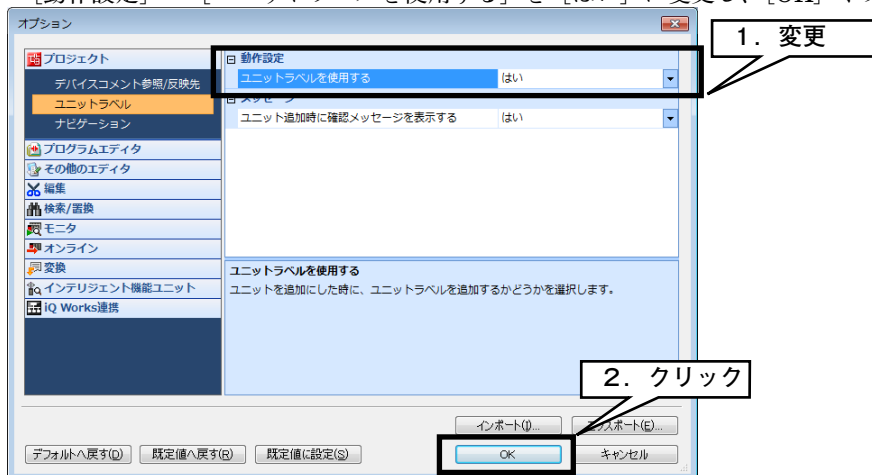
③ プロジェクトのシーケンサの [シリーズ]、[機種]、[プログラム言語] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



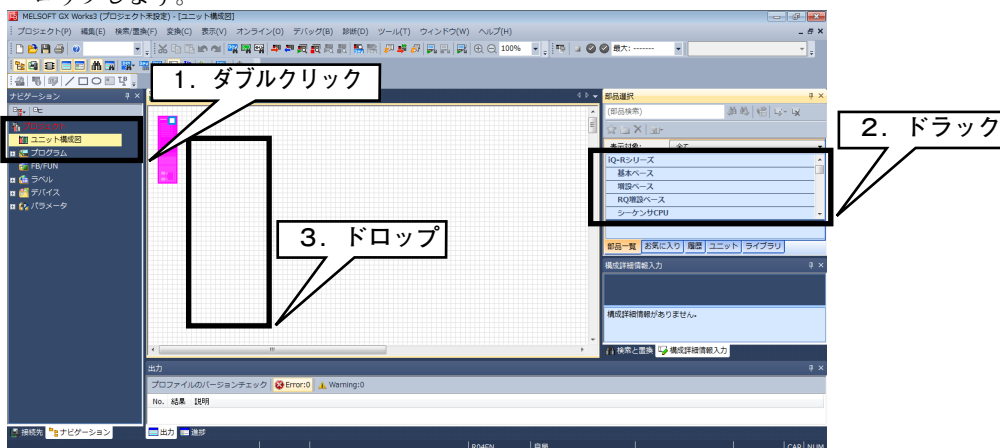
- ④ 次の画面で [ユニットラベル：使用しない] となっている場合は、[設定変更] ボタンをクリックし、[オプション] 画面を表示させ、使用するに変更します。



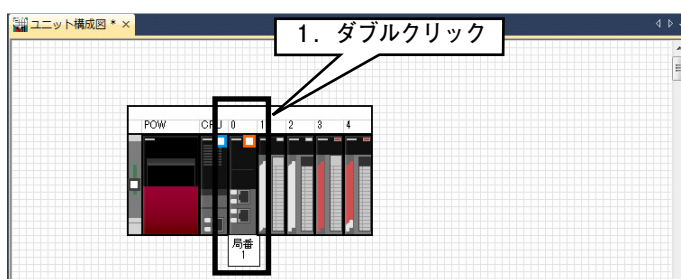
- [動作設定] → [ユニットラベルを使用する] を [はい] に変更し、[OK] ボタンをクリックします。



- ⑤ ナビゲーションウィンドウの [ユニット構成図] をダブルクリックし、[ユニット構成図] 画面を表示させます。部品選択ウィンドウの部品一覧から、実際のシーケンサ構成通りに機器を選択し、[ユニット構成図] にドラック&ドロップします。

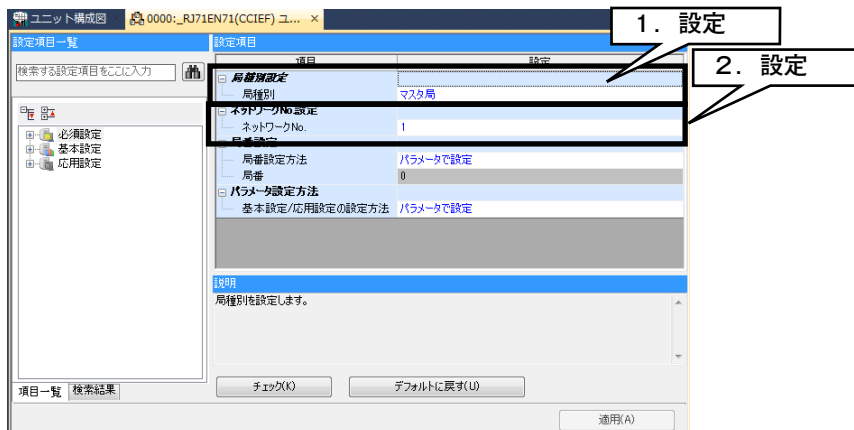


- ⑥ [CC-Link IE Field 通信ユニット] をダブルクリックし、[パラメータ設定] 画面を表示させます。

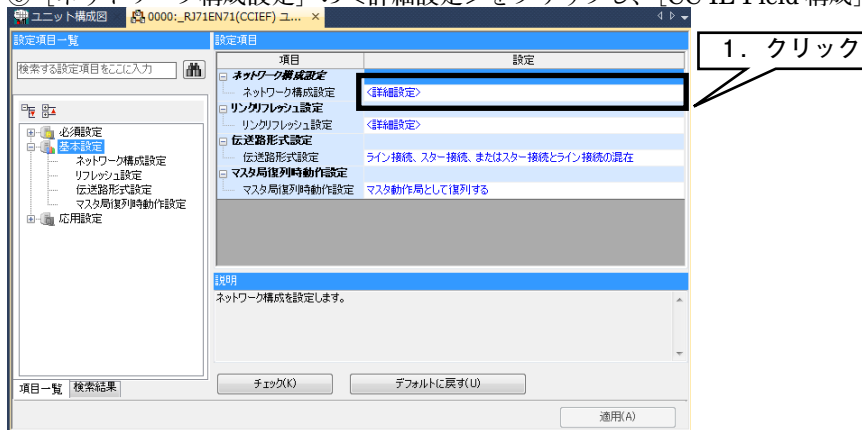


⑦ [必須設定] を選択し、下表の通りに設定して下さい。

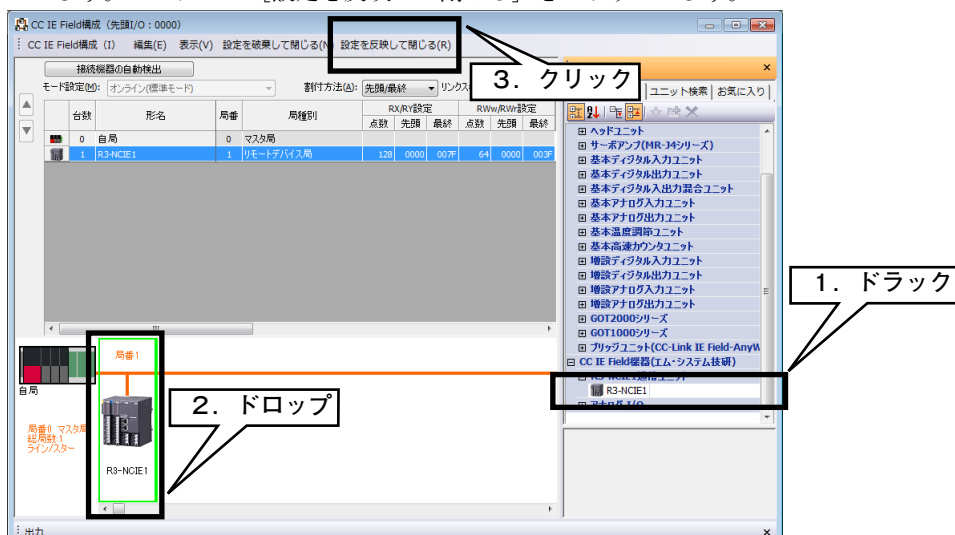
設定項目	内容
局種別	マスタ局
ネットワーク No.	1



⑧ [ネットワーク構成設定] の<詳細設定>をクリックし、[CC IE Field 構成] 画面を表示させます。

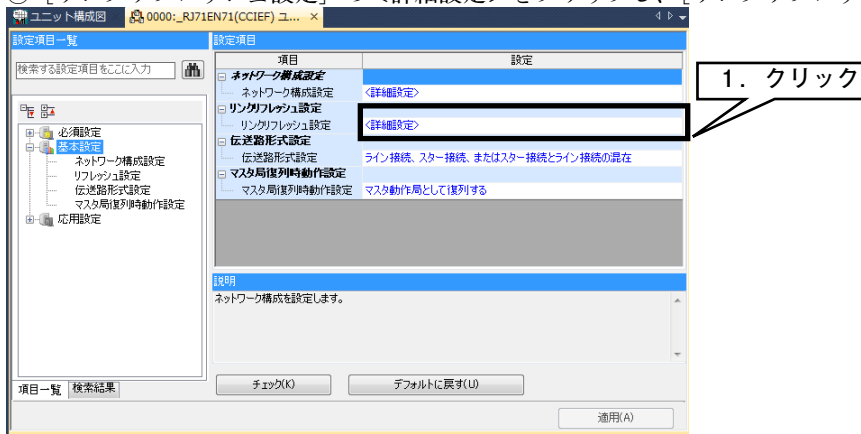


各構成ウィンドウのユニット一覧から、実際のシステム構成通りに機器を選択し、機器構成図にドラック&ドロップします。メニューの「設定を反映して閉じる」をクリックします。

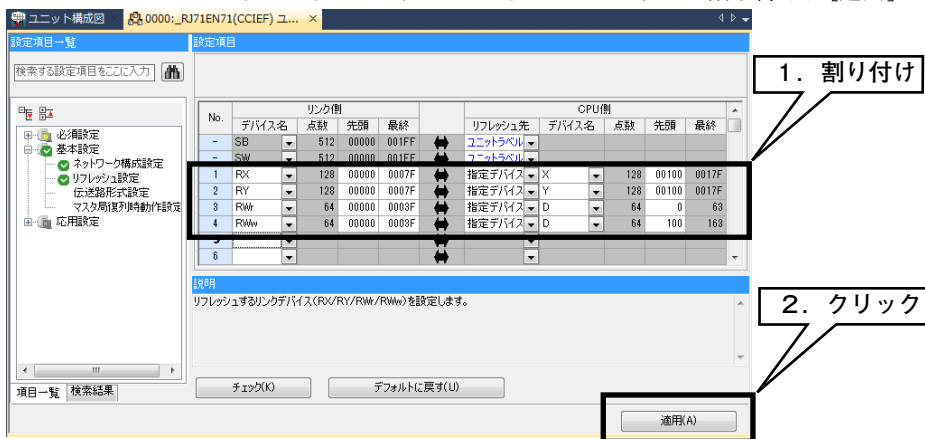


\* 本器の CSP+ を登録していない場合、[汎用 CC IE Field ユニット] を選択して下さい。

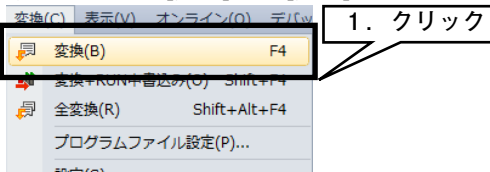
⑨ [リンクリフレッシュ設定] の<詳細設定>をクリックし、[リンクリフレッシュ設定] 画面を表示させます。



リンクデバイス RX / RY / RWr / RWw を CPU ユニットに割り付け、[適用] ボタンをクリックして閉じます。



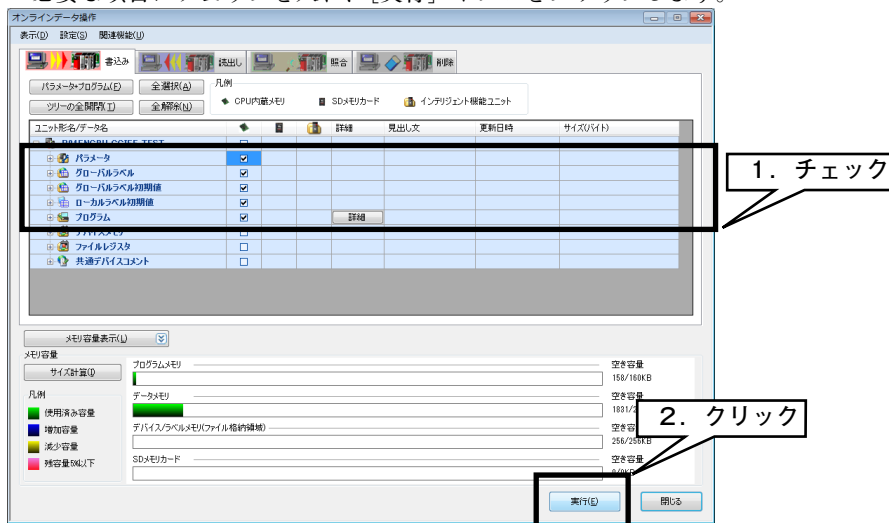
⑩ メニューの [変換] → [変換] を実行します。



①メニューの [オンライン] → [シーケンサへの書込み] をクリックし、[オンラインデータ操作] 画面を表示させます。



必要な項目にチェックを入れ、[実行] ボタンをクリックします。



## 保証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後3年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。